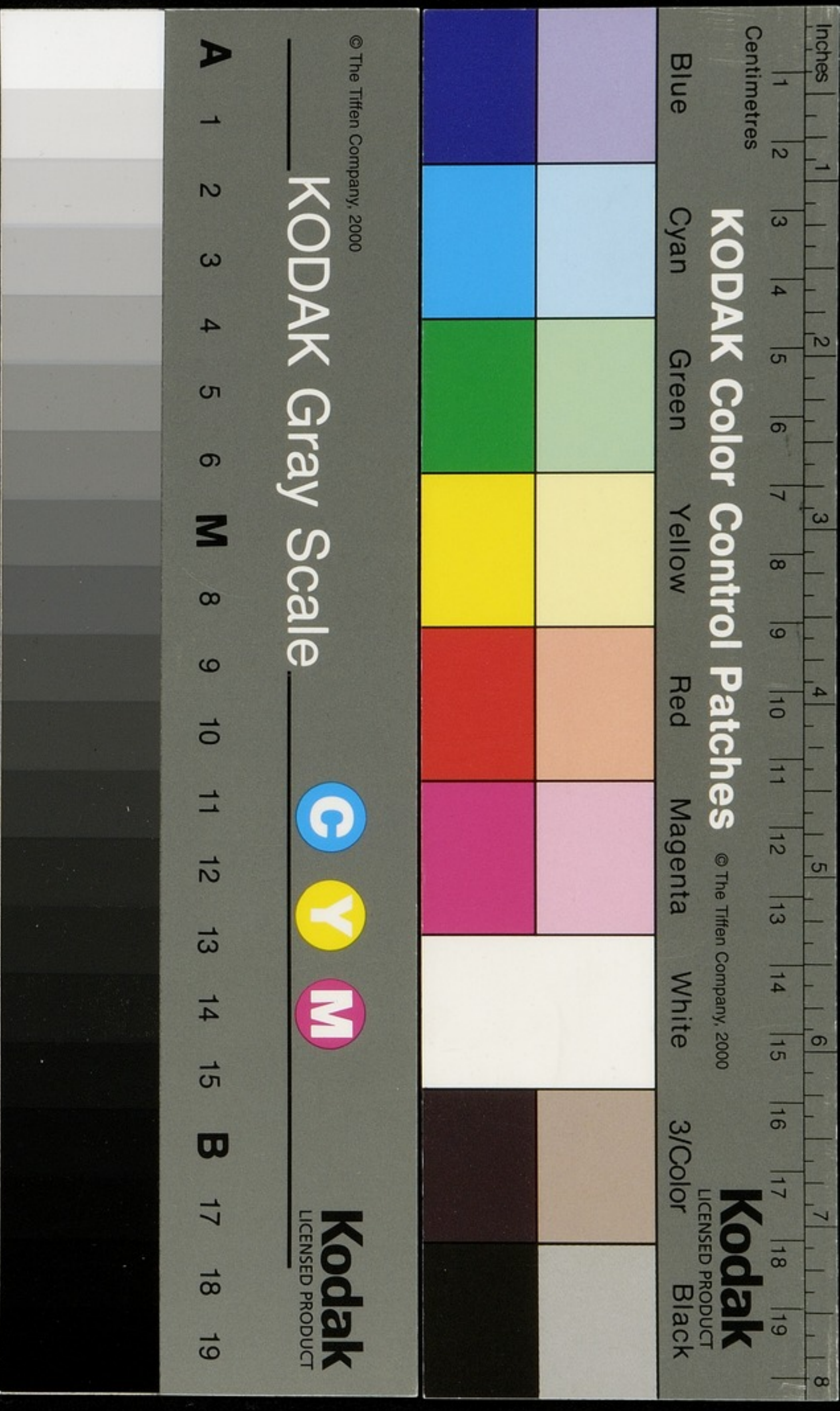




『椿説弓張月』拾遺四

鎮西八郎椿説弓張月拾遺卷之四
為朝外傳

東都

曲亭主人編次

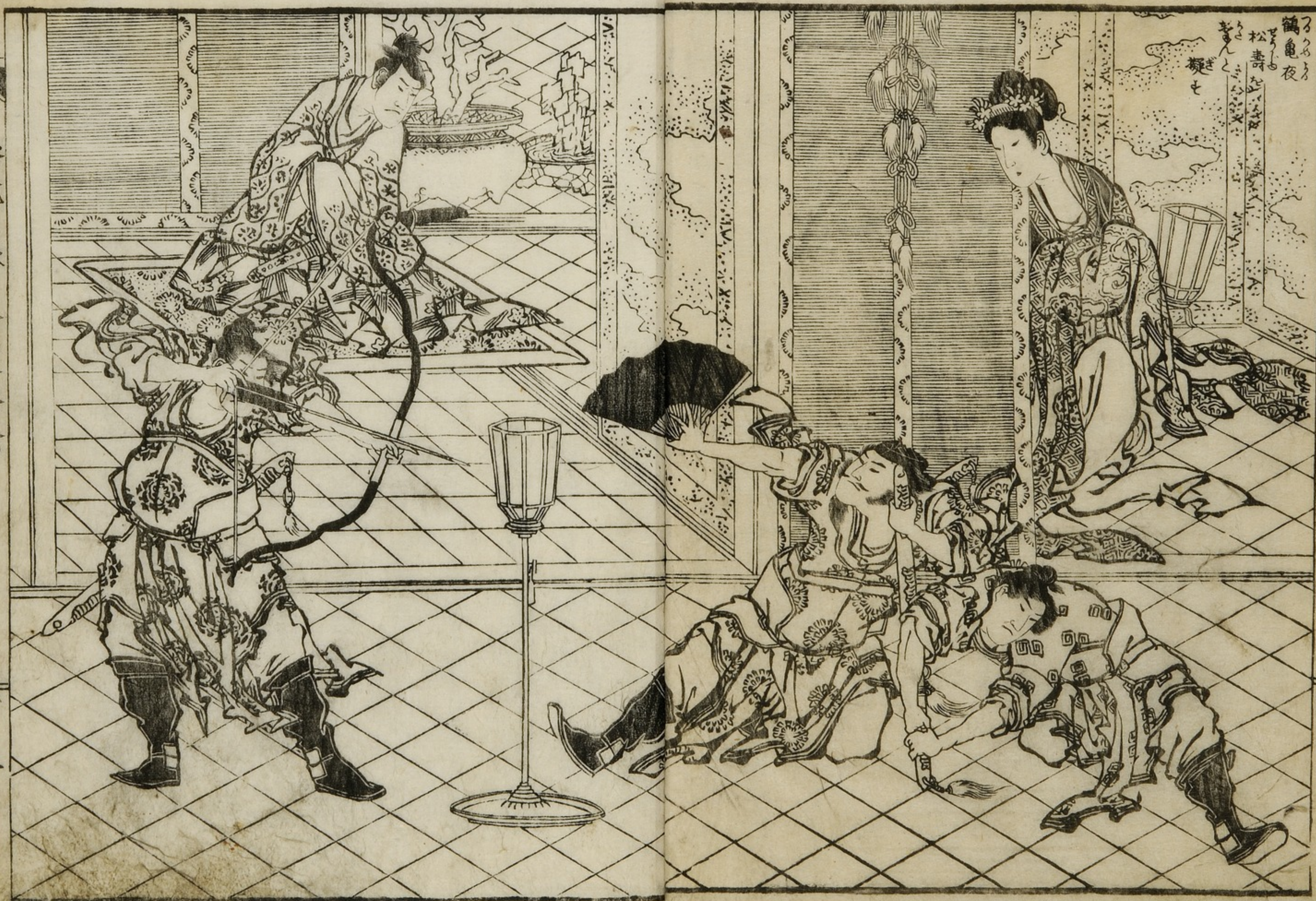
第五十四回

海棠を欲て為朝朦朧雲を見る
利勇を撃て鶴龜阿公を逐ふ

大里の按司八郎為朝ハその夜より更闌て陶松壽が慌しく東風平
より来つる。やうこそあらむとおぼせし。應て閑室へ招れ入て對面
する。松壽は寒温を述べぬ。忙しく小膝に坐す。某かく
密に申す。別儀あり。おれ事の為体と窺せし。その日の甲夜
原の城に。間諜者を強し。おれ事の為体と窺せし。その日の甲夜
小走り来て城中に如此くの密計あり。明日より諸按司の拜賀ふ
る。八郎按司は朝と下官を撃つ。人として。りつらつ唯依を



鶴亀夜
松壽
孝人
擬



武藝の師なり。且當初父吹挙ふりて里之子に挙げたる恩を
忘れて恩を忘るる。義を忘れて勢ひお就き。利勇に媚諛ひて忠臣
を殺せり。その罪一。亦王女は母子の中城を落しつゝは汝廉夫人
を殺し牛一やうせ。姑場の山里母して情なくも殺し其罪二。
亦查國士と共王女を救ひ進ませり。意中々奸計あれば。この
故に查國士。忽地異を失ひて討死せり。その罪三。この三の罪ある
に誰の不忠不義といふ。吾們王女の夫婦の仁慈よりて。年来
この城中あり。汝が世お死なれ。汝が形勢をえなく。毎は歯を切ること
既ふ。これ。君父の仇人利勇といふ。誓ひされ。縛の破る。入る
を。曩も佳奇呂麻。汝を願ひ。おろしく。手は。く。さ
さ。り。お。つ。ても。脱。る。路。あり。や。とい。は。れ。ま。き。な。が。ら。枝。か。る。刃。よ。お。れ。と。
荒。介。う。ち。笑。ふ。縁。故。を。あ。げ。さ。れ。ば。その。疑。ひ。の。理。なり。この。件。の。こ。ろ。ふ
は。き。て。胸。う。つ。れ。こ。な。れ。ゆ。も。あ。ら。な。い。は。寧。王。女。小。告。さ。う。から
せん。と。い。ふ。も。言。ひ。漏。易。き。を。り。て。い。ま。ご。や。さ。な。ハ。郎。按。司。も。お。ろ。れ。る。に。
某。不。肖。なり。と。い。ふ。も。争。う。廉。夫。人。を。害。し。な。ら。ん。き。憐。れ。ば。な。や。ら。ぬ。六
年。に。り。ぬ。夢。の。迹。世。の。只。苦。場。の。山。里。小。利。勇。が。軍。兵。充。満。て。脱。る。か。と
も。愁。小。王。女。を。落。し。は。わ。い。せん。と。て。さ。う。ら。刃。に。伏。し。ひ。一。廉。夫。人。の
お。ん。首。級。を。あ。つ。て。利。勇。が。屯。を。解。し。その。ち。越。来。の。石。橋。あ。く。討。死。
し。お。れ。の。鶴。が。死。首。級。り。て。寧。王。女。の。お。ん。首。級。なり。とい。ひ。に。し。ら。ぬ。奸。智。
に。長。く。利。勇。が。欺。く。苦心。一。朝。は。説。き。が。に。ある。に。王。女。の。存。命。て。
佳。奇。呂。麻。お。在。る。は。ハ。郎。殿。の。訴。お。よ。り。利。勇。の。め。う。く。松。寿。と。疑。ひ。
忠。義。め。り。て。王。女。を。迎。へ。密。に。これ。を。毒。殺。し。て。松。寿。も。殺。さん。と。い。ふ。う。

春説書長月合貴書之

計校らん。その氣を以て猜なり。さうして寧王女を救ひ進んで
 へうりやと。さうなうさぬと。おひひうつ。佳奇呂麻おまき。
 王女お拜湯し。まればおのひさぬ面影まで。いじやの似るなど。かくて
 利勇が毒計を脱れり。んと容易し。と。じやて公おちか。か。や。や。
 南風原の城。お冊き入れ。お果し。利勇が疑ひ解。君臣急る。と。
 を。亦某年。利勇に媚。彼。門の狗と。り。先師毛按司
 の。送訓。と。查國吉と。共。死。り。始終の忠義を。と。なる。さ。さ。
 查國吉。お杵。お義を。り。討死。松壽。お程。嬰。お忠。お守。り。阿容。と。
 と。雙。お從。お彼。おる。の。いと。多く。これ。を。る。の。稀。なる。い。多。よ。國家
 ぬ。び。興。らん。と。と。若。り。の。乱。と。る。世。お。あ。忠臣。義士。なり。と。
 い。ひ。け。て。目。を。押。拭。へ。今。や。い。と。り。お。鶴。亀。も。刃。を。お。り。て。嘆息。
 い。ふ。き。こ。も。な。り。け。て。折。し。も。あ。れ。王女。お。屏。風。を。か。ん。す。り。つ。の。め。と。お。
 て。お。朝。の。傍。に。け。り。襟。き。の。して。松壽。お。對。ひ。東風。平。按司。の。心。操。と。
 め。り。は。んと。お。ひ。な。る。廉夫人。を。替。なり。し。と。年。疑。ひ。れ。や。ゆ。で。
 今。宵。お。龜。お。さ。や。れて。その。胸。中。お。撈。る。に。足。下。の。忠義。を。る。の。こ。る。と。
 又。お。身。お。斬。く。落。さん。と。て。お。づ。り。刃。お。伏。ま。お。母。廉夫人。の。仁。慈。の。と。は。
 け。れ。磯。の。浪。お。き。難。れ。お。沈。に。なり。是。お。松壽。微。り。せ。ば。つ。が。お。さ。こ。ら
 り。鶴。亀。も。眼。雲。利勇。が。ま。に。死。る。ん。毛。國。吉。なり。松壽。お。查國吉。と。
 時。を。い。し。蝸牛。の。用。の。お。ひ。お。中山。山。南。山。北。と。と。お。つ。れ。この。國。の。
 浪。の。鼓。の。何。の。時。ぐ。ら。も。お。と。や。ん。と。と。う。り。に。袂。を。顔。お。押。當。く。ま。人。は。
 海。の。目。と。同。お。い。し。と。を。念。も。す。と。雄。が。林。お。め。り。て。さ。る。と。ふ。

涙もやもなかりけり。當下王女にあむく。暇をゆうやうに拭ひ。
喃ふが丈夫彼処まで父はる。利勇が邪謀を。おん父の危窮とあり。
なから。うち驚れ。おぼしき旨あるやうん。かれ大事に婦女子。
の。さうさういふべし。王子の僅に六才の小児なり。縦その
命を受とり。いふも。名あつて実なれば。父や。大功の細謹を顧ど。
大れ。小讓を辭せど。いふ人の勇士も。いふ。只。この。決せ。
られ。利勇。殊。一。蒙。雲。を。うち。滅。して。國人を救ひ。人か。と。宜ふ。あそ。
乃。然。は。ま。を。又。然。然。として。在。せ。が。扇。を。把。と。膝。ふ。は。き。ま。い。り。り。
所。道。理。お。稱。へ。り。それ。亦。利。勇。を。お。そ。う。に。め。だ。れ。は。世。の。人。心。
笑。の。中。に。刃。を。かくし。錦。の。囊。に。毒。を。裹。ひ。松。壽。を。う。ち。も。う。ち。解。る。
大。き。を。諒。ひ。が。し。と思。唯。して。再。び。と。び。推。辭。し。既。お。その。行。ひ。を

人亦その言を。毎。お。忠。義。を。い。ふ。と。い。ふ。今。と。疑。ふ。を。き。ん。
あ。い。を。我。を。入。て。せ。し。れ。ハ。勇。な。れ。り。利。勇。を。討。と。る。計。策。を。う。ち。し。
と。宜。ふ。を。松。壽。ハ。飲。然。として。席。を。さ。り。免。頭。を。さ。り。肝。膽。を。吐。れ。計。畧。
既。お。その。人。ハ。鶴。龜。ひ。と。し。く。勇。を。さ。り。君。父。の。逆。臣。父。母。の。讐。を。利。勇。
阿。公。お。が。首。を。斬。く。さ。り。ん。る。只。の。一。拳。お。あ。り。と。い。ふ。それ。を。忘。れ。る。声。
高。く。捨。る。拳。の。早。藏。や。燃。る。う。ち。壯。校。の。さ。う。さ。と。と。推。量。り。外。
へ。や。洩。し。ん。音。と。て。と。王。女。を。さ。り。れ。憚。の。関。も。わ。け。ゆ。ハ。声。の。鶏。お。暇。
ま。う。して。陶。松。壽。を。忙。し。け。退。出。つ。馬。お。閃。り。と。ら。ち。跨。り。て。東。風。平。の。
城。へ。ゆ。り。け。り。却。説。本。日。お。も。り。ね。豫。と。さ。り。い。ふ。は。乃。然。と。衣。冠。
を。整。正。へ。王。子。に。祝。し。進。り。と。と。大。き。さ。る。花。籃。の。中。お。鶴。龜。同。胞。を。
躲。し。入。れ。て。夥。の。壯。丁。に。扛。擔。し。二。三。十。人。の。後。者。を。領。て。城。を。出。馬。の。足。搔。と。



為朝の謀
孝子仇を
殺そ

ときめきふ。時刻を定めしめられ。陶松壽もおほし。比及ふ。東風平より
 多うつ。途めて是彼ひとり。廿なり。兩按司。響次並べて。いふ。路をいそがし
 獲て。南風原の城へ入り。めく。應雀。呂緑。出ひ。久て。正殿へ。誘ひ。出。彼花
 籃。あ。車。次。つ。け。し。り。乃。朝。と。づ。う。し。その。綱。を。合。め。く。徐。り。ふ。歩。き。し。め。く。が。
 松壽も。その。後。方。に。跟。く。廊。を。過。れ。と。れ。左。右。ふ。帷。幕。を。垂。れ。て。人。の。り
 と。お。ほ。し。た。を。尻。目。ふ。か。け。つ。と。ま。り。う。き。も。に。さ。み。入。れ。ふ。正。殿。の。翠。簾
 捲。あ。げ。し。阿。公。の。王。子。を。抱。き。て。高。座。あ。り。利。勇。の。その。次。に。し。諸。按。司
 と。北。面。し。て。二。帶。ふ。居。な。げ。し。り。その。と。れ。乃。朝。の。王。子。を。拜。せ。ん。し。て。松。壽
 を。告。と。え。く。り。め。く。が。松。壽。の。を。う。く。う。う。ひ。て。劍。を。引。抜。れ。抑。か。し。め。く。
 前。ふ。立。し。る。應。雀。と。只。一。打。ふ。砍。仆。せ。が。利。勇。阿。公。ホ。大。き。ふ。驚。れ。と。の。奇。怪
 なり。狼。藉。あり。お。も。も。出。よ。と。喚。せ。も。め。く。と。鶴。亀。の。身。甲。を。て。花。籃。の。中

より跳り出刃次閃くは、利勇を撃んと競ひ、蒐まふ。利勇はまきとて、周章
あて、更ふ敵さるふ及ぶと身次時して逃んとす。おを同胞左右より引拔こ
透間もす。撃はどふ。利勇ハ脱るに踏みて、劍をりつて受とぐえ。
二之合戦ひしが、孝心凝るる同胞が陽の劍を柱う。初太刀ハ鶴二の
太刀ハ龜が踏こい鋒とがり、に左右の隅、砍割れ、腎居と撞と仰々
を起しも、まど跨うて、中城の按司モ國井が子ども、鶴龜先考の冤を
雪め、國の爲ふ逆臣利勇を誅とるゝと、嚙りけて、やぐぞ首をくれ。落こ
その隙、爲朝ハ只一撃に、呂緑を切伏せ、血刀引提ぐ、まめへハ松本、
王子を取す。かんせんとして、阿公お飛うれハ、阿公いよ、慌忙ハ逆賊松本。
王子ハ弑し、なり、れや。と叫ぶ。殺ハ、松壽ハ、ちの、あゝ人ハ、阿公は、
身を更りて、し、あ、れ、る、袖、あり、放、左、手に、王子を、抱、き、そ、え、く、喘、

逃まれば松葉へさうり鶴亀の母の仇人脱はじとて喚とあけ追蒐
く。されば乃羽松葉を搦捕らんとて帷幕の内ふ躲ひる氣登之
亦暗号齟齬て出まを失ひ且乃羽の武勇今にじりどその猛勢
ふ辟易してさき悉く降参て況て緑高き按司親雲上ひびがひるれ
里之子亦至れずて既を叩け拜伏して吾侪え来野々は王女ハ郎
君のおん乃忠信を励し。命を助多人じとて勸解よりれば為朝
かこれ徒を殺さ。汝達固ふ先非を悔て國ふ忠義を竭さんとす。ば
さや阿公を追ひとて兄王子と恙なくその人として過半その時
これの淫婦海棠を捕んとて弓箭を手持ち氣登之におぼて彼此氣索
まふに海棠の紅粉樓の欄すふ身を倚て苑の花を眺めてなり。為朝
さづら氣登之におぼて樓上より走り登りまふをえかづりけり。冷笑ひ

衝と身を起て欄より飛よりんとする処を乃羽弓箭うち刺ひてより
一漂とさうらふ。寃さうらふ海棠が細首井と射きりまへ怪しき
か。残により黒き隠とまのぼり。煙の中に老うは法師忽然とま
わられ呵とさうらふ笑ふ声りあもに朦朧と形は消てなり。乃羽
さうの形勢に弓杖衝と信とあふまへ。さて海棠の朦朧幻術のまを
所。彼禍獸不異か。罪なれ夥の人を殺と妖法なり。と宣へて衆皆
げありとさひひめて。咄小舌を掉ひたり。さう乃羽陶松壽ハ走乃阿公と
追ふんとて廣庭ふ蹴り出れど生茂れ樹より隔られて。乃羽がさう
乃羽阿公ハ老れども。乃羽健なりめて足いとさや。王子と抱なみから
鼯のこく樹間を走り繞るほど乃羽松壽ハ忽地みその往方とえり。乃羽
さう乃羽焦燥て樹の枝を推した草葉をうれ拂ひけり。索られ。



遂にぬぐびこれを見せしむ。鶴亀の仇人利勇を殺ししを怨
 へおるじ阿公と申し脱はじと早雄のいや瀬ふあてゆく水と堰もか
 ころころして同胎ぬぐとて失ひ。筑牆の外へ走り出れ折しもあれ
 城溝の中に水音して稚児と石ふはしめけ。潜り出るのありき。ま
 ら阿公なりとてえられけ。江の樹蔭に隠れぬとゆきされは
 を伏て候とあり。髪より乱と鬢のおくれ毛かれあけて。隻手に絞る
 綾の衣賢い君よ啼泣ある。いざ懐へと抱き入れて濡れしうに
 ゆくめ多。迹と濁とと赤きう。岸の小細竹をちうら草。身を跳ち
 きて這ひ登り。ゆくととれは。ひもかけを眼さうらう。晃くは。龜
 刃を跳りこえ亦ぬりぬぐれ。右手の膳丁と突く。手煉の拳法。叫
 苦とむうりに二足。足遠巡ぐすを。阿公やうねと叫ぶ。

詔の一声驚く。とんく。おがら打かる。阿公が鉄鏡を刀の鞘に受
ちめても。さうふね仇人のいらいやく。水際みぎわの芦あしのいと暗く。藪くさが
中に飛び入りぬ。

第五十五回

按司あんざと會あひく。為朝ためあ。矇雲もぐもを討う。
城郷じやうきやうを捨て。賊將ぞくしやう首里しゅりに走れ。

為朝既ためあふ海棠たいかうを砍きて。樓上ろうじやうを下り。多くへ松壽しょうじゆ鶴龜かくきと諸按司しよあんざ親雲上おんぐんじやう
ホとともひ。つり。吾われ們ら八は方はうふ。つれて。阿公あこうと追苗人おひなうと。さる。件けんの
悪婆あくばと王子おうじと抱いだき。城しろの濠門かうもんより脱だつと。去いり。往方かうも。あれと。なりて。ぬと
すう。び。ゆ。ぞ。為朝ためあ。つて。眉まゆうち。擧あげ。阿公あこうハ。原足はらそく。貪婪こんぱん。金慾こんよく。悲かなの。老婆らふた
なり。這奴このやつ脱だつと。去いり。つ。も。何なんは。どの。さう。あ。ん。只ただ。忽たち。と。あ。が。た。ハ。王子おうじの
う。なり。阿公あこう。敵地てきちに。走はしり。て。矇雲もぐもが。賊兵ぞくへいに。捕とらられ。王子おうじは。不虞ふよの。ゆ

あ。い。誰たれが。あ。あ。義兵ぎへい。大揚たいやうべき。これ。が。患うれ。れ。所ところなり。諸君しよきみ。ふ。て。ひ
部べ。して。王子おうじを。索もとす。わ。せ。さ。人ひと。ぞ。く。と。い。そ。じ。さ。人ひと。ハ。衆しゆ。皆みな。異い。口くち。同音どうおん
あ。て。さ。う。に。や。う。その。さ。め。く。る。愁うれ。ひ。さ。ひ。そ。王子おうじハ。妃腹きはらと。さ。う。せ
ぞ。も。実じつ。ハ。出処しゅしよ。定さだ。う。さ。う。に。且かつ。按司あんざ。を。先王せんわうの。駒馬こま。に。て。寧王女ねいわうめ。乃
良人りやうにんなり。は。し。や。王子おうじ在あ。ど。も。矇雲もぐもを。討う。め。人ひと。ハ。孰たしか。う。その。後ご。ハ。あ。が
ど。と。さ。う。さ。ん。され。ば。吾われ。倚よ。ハ。王子おうじの。往方かう。あれ。さ。る。を。然しか。と。せ。て。只ただ。矇雲もぐも
う。滅めつ。さ。る。大患たいこんと。と。す。ぶ。利勇りゆうが。貪く。り。貯たくわ。へ。る。賊宝ぞくたうを。散ち。り。て。窮民きゆうみんを。賑なぐさ。
山南さんなんを。う。ち。お。さ。め。て。矇雲もぐもを。滅めつ。し。め。人ひと。さ。る。こ。も。願ねが。ひ。く。ゆ。と。言い。語ご。を
盡つく。し。て。諫いさめ。か。ば。為朝ためあ。ち。う。さ。及およ。び。て。且かつ。く。その。議ぎ。ハ。あ。と。が。ひ。さ。う。ら
城しろ中ちゆう。張は。う。ち。め。づ。り。て。罪つみ。な。れ。囚徒しゆとを。放はな。し。宝藏ほうざうを。ひ。く。り。て。積つ。る。所
の。金銭きんせんを。所司しよし。軍民ぐんみん。ハ。あ。つ。う。ち。と。亦また。罪つみ。す。て。利勇りゆうが。あ。は。殺ころ。さ。と。

これの妻子は賑ひ多し。ふ。ま。その仁信に感激し。枯れ
稿の雨のあひ。轍の跡の潤み入る。こ。ち。し。て。終。つ。と。限。り。な。く。此。君
の。為。な。る。命。も。後。で。は。し。う。な。ら。ば。さ。く。矇。雲。を。討。ま。し。城。壕。の。埋。草。と
なる。ま。で。も。高。き。恩。あ。る。報。ん。と。さ。る。り。の。な。り。け。し。か。ら。し。終。お
為。朝。の。利。勇。が。苛。法。を。去。て。賞。罰。を。正。く。し。遂。に。鶴。を。大。お。し。龜。を
副。ね。と。し。て。南。風。原。の。城。を。さ。し。お。の。く。由。新。な。く。王。子。の。往。方。を。索
ち。う。べ。た。は。し。を。す。え。お。れ。て。松。葉。を。東。風。平。へ。う。し。め。の。日。大。里。へ。こ。ち
か。り。て。あ。り。し。り。も。お。ち。も。な。く。王。女。お。ち。が。り。ま。ひ。し。う。王。女。を
緯。の。熱。を。つ。ぐ。と。う。ち。ま。て。ト。び。ハ。利。勇。が。族。滅。せ。れ。と。こ。ち。は
と。し。亦。ト。び。ハ。王。子。の。往。方。あ。れ。う。な。い。と。は。ま。し。く。お。ひ。し。う。な。て。
か。て。乃。輕。ハ。間。切。毎。お。少。き。う。て。王。子。の。往。方。を。う。づ。ね。ま。か。せ。亦

首里に間諜者を遣はし。阿公が所在を尋定めんとし。あ。お。月。日。の。こ
い。づ。に。預。ふ。れ。ど。王。子。の。往。方。を。あ。る。は。し。な。く。その。年。も。暮。れ。て。
春。も。流。し。ま。り。し。う。南。風。原。東。風。平。より。松。壽。鶴。龜。木。連。署。し。く。
人。馬。既。ま。の。ひ。ね。諸。方。の。按。司。も。牒。し。あ。り。て。矇。雲。を。討。ま。し。と。勸。る。
お。為。朝。を。時。る。は。と。や。し。と。の。こ。回。答。し。て。あ。る。ぐ。し。く。動。き。な。ま。す。つ。た。
王。女。ハ。この。形。勢。を。い。ひ。ぐ。ひ。し。と。お。ひ。ま。あ。お。と。か。し。て。今。茲。も。亦。九。月
の。下。旬。あ。り。の。に。さ。れ。ば。為。朝。俄。頃。に。軍。議。あり。と。觸。れ。し。て。大。里。の。城。
お。諸。按。司。を。會。集。ま。し。東。風。平。の。按。司。陶。松。葉。南。風。原。の。守。將。鶴。龜。
小。緑。の。按。司。儀。翰。ハ。頭。山。の。土。官。田。平。お。を。と。じ。め。て。こ。の。席。に。坐。り。
さ。る。り。の。形。う。り。り。その。と。れ。為。朝。ハ。扇。を。笏。に。把。て。の。こ。ま。あ。や。う。な。れ。
と。か。づ。も。この。土。へ。漂。ふ。國。の。乱。れ。ま。あ。を。り。て。國王。の。女。塔。と。呼。ぶ。

位高く任重く。諸按司おる重せられて安然として日をおる。豈本
 来の面目するんや。矇雲先王を弑逆し。王宮をお入て久く逆威を
 振へて。只恨くくハ大臣利勇國の爲お忠を竭さん。一時の虎威を逞し
 て。淫酒お耽て。寇を討んとせんとて。罪なれ軍民弑殺し。刺陶
 按司と爲朝を害せんと謀りしや。お己く弑逆と。去年利勇を誅し
 して。あうりとくも。王子弑阿公を奪ひ去られて。平生の望を失ひ
 その所在を。あうん。爲お各位の催促を。然止して。かぐしく軍兵弑
 起さ。この矇雲が。幻術弑怖る。に。あうん。王子弑南風。おか下す。お
 らせ。とい。爲朝。次。お大臣を殺し。王子を逐めて。山南首を奪く。と人えん
 この。おひ。とり。く。苦く。敵地。お至れ。まで。あ。の。びく。お。残る。隈。なく。
 索す。わく。を。お。と。く。も。王子の存亡。あ。お。由。は。月。日。ハ。漏。く。水。お

似たり。時と勢ひへ失ひ易し。人生七十古来稀なれば。為朝も死し。
 おのくも亦死し。孰れ。矇雲を滅とぐ。今へ是非。及て王子
 の所在を。あづむ。といふとも。先王の。為。小義兵を。揚て。國の安危を。定む。
 されば。王女。つら。妻な。あ。尚寧王の。嫡女。なれば。今日の。主人。公と。
 定め。翠簾を。垂て。彼処。ありと。扇して。指示。する。これを。笑く。りの。
 いと。理あり。と。回答。つ。坐。母。感涙を。拭ひ。ぬ。翠簾の中。も。王女の。
 声して。ぞも。あ。ざ。れ。い。ひ。と。ぞ。ひ。けり。悔。と。よ。と。宣ふ。
 隨ふ。洩。せ。ゆ。れば。為朝。か。さ。秘。て。松壽。お。對ひ。陶按司。ハ。智謀。あ。く。且。
 地理。お。精細。と。笑。て。この。処。ハ。北。の方。首里。お。都。て。兵を。さ。し。む。の。便。め。れ。
 ぞも。山路。險。岨。や。て。進退。自在。な。る。ざ。れ。べし。あ。ふ。所。あ。ふ。は。ま。ほ。と。
 宣へ。ハ。松壽。さ。さ。と。も。く。さ。う。に。や。う。この。処。首里。お。遠。く。海。の。敵。ハ。防禦。

の備めをへ。加之。山路羊腸にして兵をよめくじ。り。ら。より直に
 攻へんとせよとれ。ハ。夥身方の士卒を失ひて勞して切をほが。と。ん。
 愚按をりて謀るとれ。ハ。大里小智勇の大將をのじ。おれ。君へみづ。ら。
 諸按司をりて竊ハ。川良の津とこえ。辨嶽の麓より。獲り。出て。急ハ。
 浦添の城を攻。お。し。宜野湾。美里の地を畧。北より。南。め。ら。ち。
 向ハ。長く。驅て。首里を攻。め。ず。矇雲。と。づ。づ。城を。出て。戦。を。決。と。
 ぞ。し。その。とれ。大里。小。城。り。と。づ。ま。り。と。れ。身方の。大。お。二。三。百。の。逞。兵。
 を。お。て。山路。ハ。ろ。け。登。り。火。急。ハ。敵。の。背。を。襲。り。矇雲。幻。術。の。り。と。
 い。つ。も。前。後。ハ。敵。を。う。け。て。防。ぐ。に。不。為。ら。ず。忽。地。擒。と。な。れ。る。に。
 ぞ。て。辨。合。を。り。て。述。お。け。れ。ハ。衆。皆。歎。賞。し。こ。の。謀。を。
 帷。幕。の。内。ハ。め。づ。づ。して。勝。と。を。千。里。の。外。ハ。決。と。る。の。妙。策。と。す。べ。し。

と稱一か。為朝やぐその議やあさうひさで誰をうらふ我し。あ
て敵の背を襲ふべし。と。同多入。松壽亦もう。此中。於電々。事。う。は
つ。う。けれ。ど。その。智。勇。父。毛。國。將。う。風。あり。この。同胞。小。月。そ。り。の。あ。れ。べ
か。ふ。と。答。ま。う。せ。る。於。電。う。て。飲。つ。と。味。雲。ハ。君。父。の。仇。なり。と。ま。く。逆
賊。退。治。の。時。あ。あ。て。小。雲。射。なり。とも。後。ね。る。願。一。か。ふ。と。呼。け。を。
為。給。え。う。り。て。う。ら。笑。ひ。進。む。も。退。く。も。忠。義。の。為。なり。と。誰。う。う。と。い。ふ。
臆。たり。と。せん。あ。う。い。あ。れ。と。進。む。を。飲。ひ。退。く。を。厭。ふ。勇。士。の。つ。ゆ。なり。
それ。の。同胞。を。り。て。先。陣。と。い。ふ。人。と。豫。一。も。あ。い。定。め。られ。ハ。列。よ。その
人。を。擇。む。へ。し。王。女。ハ。つ。る。前。妻。白。雉。が。其。ふ。よ。う。て。智。謀。勇。力。と。さ。く。男。子
お。恥。ぞ。且。士。卒。の。多。敬。を。取。下。これ。ふ。こ。れ。なる。の。や。ハ。あ。れ。ハ。れ。ハ。王。女
を。り。て。搦。手。の。大。お。軍。に。敵。の。脊。を。襲。ふ。べ。し。乃。朝。が。我。兵。起。さ。ふ。

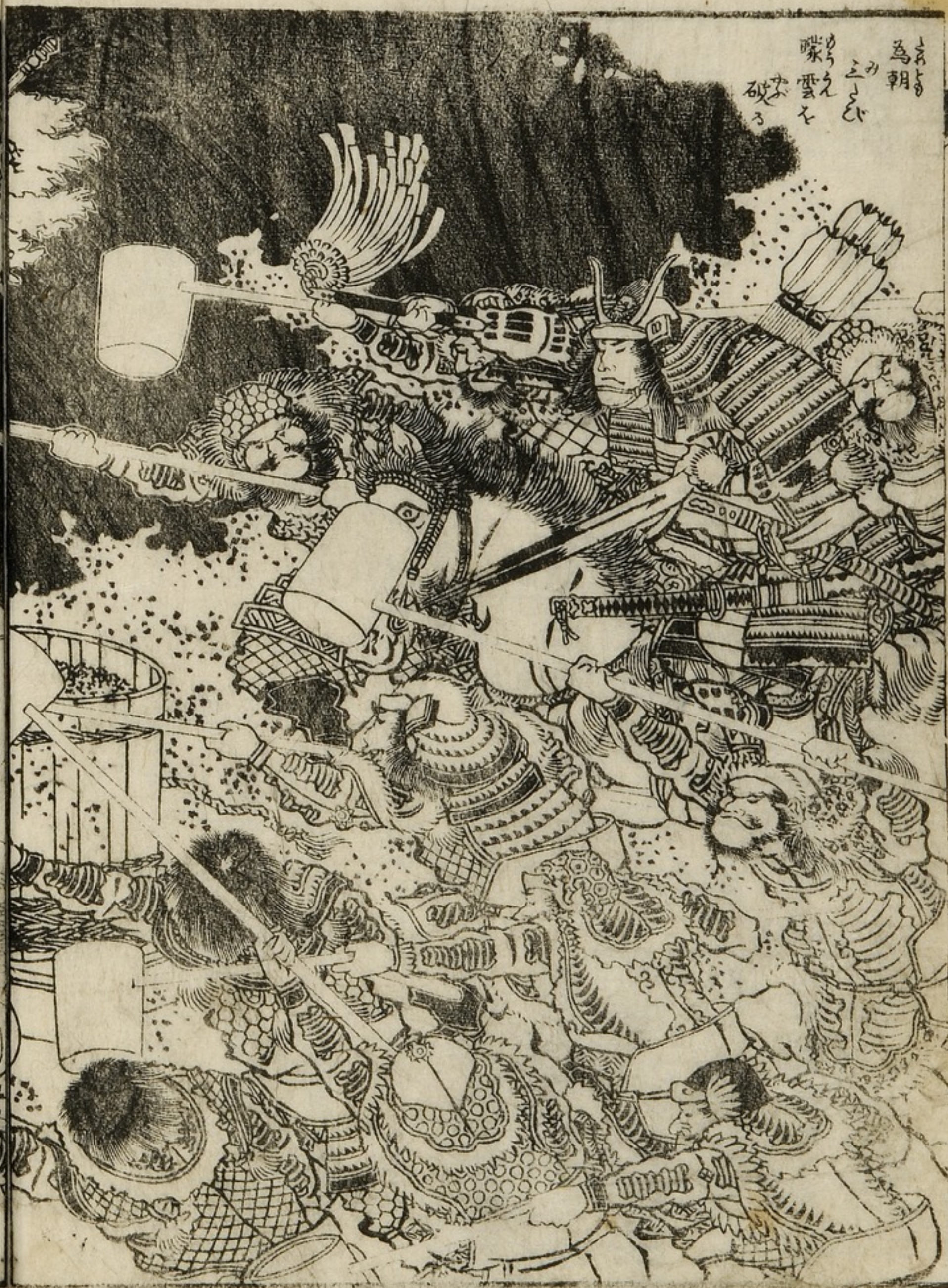
る。缺て。女人を大ねおせし。人ど。あざみ。あふりのもの。あふん。往昔。上毛
君。形名。が。妻。の。いづ。から。女人。数十人。を。お。て。東夷。を。征伐。し。唐山。高涼
の。洗氏。と。いふ。女子。の。三軍。に。將。に。して。百越。を。威服。せり。り。よく。功。次
る。を。と。あ。ふ。婦人。なり。とも。用。へ。し。各。位。へ。い。り。あ。り。ひ。と。も。を
宣。へ。松。本。の。諸。按。司。と。とも。に。ま。う。け。り。王。女。み。づ。から。搦。手。の。大。ね。と
あ。て。ら。ら。出。ま。り。君。の。南。ふ。向。ひ。王。女。の。北。ふ。向。ひ。陰。陽。和。合。し。と。勝。利
掌。と。指。さ。う。と。し。こ。回。答。し。か。バ。王。女。も。これ。を。り。れ。ま。ひ。て。ぬ。か。く
飲。ひ。仰。ほ。し。と。付。ま。ふ。は。ら。ふ。為。朝。ふ。と。い。ひ。王。女。も。謀。畧。を。使。て。搦。手
の。大。ね。と。定。め。亦。小。緑。の。按。司。儀。翰。八。頭。山。の。土。官。田。平。の。その。年。既。や
五。十。に。あ。ま。り。て。頗。思。急。あ。り。の。な。れ。バ。これ。を。強。し。と。い。ひ。て。王。女。も
從。ひ。亦。將。軍。を。先。鋒。に。して。松。壽。を。軍。師。に。し。為。朝。ふ。と。い。ひ。中。軍。に

將にして千三百騎を二ふた千せんよりたそのうち三百騎ハ王女みまああととひひく
 擯ひきより進すすびへとて軍いくさ湊みな日ひああに整ととのひぬ時とき小大日本こおほなほ安徳天皇
 の壽永元年九月八日の曉あけに乃朝ハ一千の逞兵を引卒いんそうく。
 大里の城を出で一ひと日佐敷さしき間切まきりのふ人馬を休やすめてはは馳加いせがふ士卒しそと
 うちめし遂つひ丹川良にがはらをうち越こて韓嶽かんがくの麓ふもとを従したがり出で短兵急たんへいきゅうに
 浦添うらその城除しろぞらら攻せめよせふ是これより先さき朦雲もううんハ棟孫とうそん奇律きたり之の全廣
 亦またをよび集つど合あ南風原なんふうげんああて利勇りゆうが勢いきされれ好景こうけいをえるがててくに
 説とききああじじさていいふふやうやう謀はかりり違ちがひひして利勇りゆうハ既すでに殺ころされれ山南
 の十餘間切よしままり悉ことごとく彼かの為ため朝あふ属あせりあれれとも為ため朝あええ智勇ちゆうああは
 かかくくしく此方このあたを攻せめんとせせその故ゆゑハ利勇りゆうが殺ころされれる日ひ阿公王子あこうみこ
 を抱いだき去さて竟さう小所在ありうをあはせせと是これハ一ひとつ去き年ねん五穀ごこく登のぼりて山南

兵糧小乏なり是ニツ。亦仰て天文をうけおふ。為朝が命運いず。
 竭せられ。彼を攻るも益なし。やあ母為朝。この秋の田租と
 ちりめ果ると。首里を攻んと議する。汝も豫てこのころを
 注よと説示せし。九月の下旬小至りて。曙雲の亦棟孫全廣亦を
 集合せし。曩も説諭せし。既小為朝が軍議一決して。攻
 せん。とせし。且夕に及べり。彼為朝の利勇が傳ふ。且陶松
 これを異て。よく謀る。りて。王女を搦手の大將に。大里の山
 路を越て。不意ふ。背を襲んと。あられも。つ。この千里眼は漏れ
 ことなれ。更お怖る。に足ふ。棟孫の。よく浦添を走向。奇律之
 を宜野湾と。全廣の五百騎を。那覇の港口の浦曲と。繞り
 小祿の。攻め。として。南風原の城。汝に。嶋袋の。に。火の。

二軍兵を二。あ。て。東風平大里の城を乗とり。直母王女が背
 を襲り。一戦して。擒め。亦棟孫奇律之。亦を為朝と。柱て。且く
 戦ひ。勢ひ。竭れ。かり。して。城を捨て。乱走。敵を。こ。く。誘ひ
 じ。これ。おのづから。謀あり。と説示。せ。衆皆。欣然。として。領。
 法君。かれ。神没不測の妙計あり。為朝王女を擒め。せん。何の
 疑ひ。く。べ。と。祝。て。おの。く。出陣。せり。さ。後。小為朝。ハ。鶴亀。先
 陣。として。浦添の城。攻。せ。ま。ハ。城の大將。之。司官。棟孫。数百の賊
 兵。卒。し。城を。を。と。十餘町。して。これを。迎戦。へ。鶴亀。真
 先。小馬を。生。て。棟孫と。戦。を。ま。く。左右より。刺。し。られ。棟孫。竟に
 敵。の。馬。小。拍。れ。逃。去。る。為朝。と。賊軍の。乱。れ。を。て。士卒を
 進。め。勢ひ。潮の。涌。が。く。去。る。路を。遮。り。ま。ハ。棟孫。ハ。懸。小城中へ

為朝
三々
破
破
破



へん。とせと豫謀し。しるなれば首里に投てぞ敗北と。かじし
後、為朝と輒く浦添の城を落し。長く驅て直に宜野湾に攻ん
こく。その夜、具志川に屯して。あじし人馬の足を休め、東雲に渡
比及。あまづ、竹侯と以敵のやうに窺し。あまふ宜野湾の賊將奇律之
と浦添の落城。小膽を冷たり。夜の中、小城をよて引退れていと
注進と。為朝これを笑てうち笑ひ。烏合の賊軍。つが武勇をせむじ。
戦として逃走せ。さもあふん。さもあり。なん今、北に敵は。この
処より首里まで。里数いくとく。あれ。と。同くへ。鶴亀ひとく
と。み出。こより首里へ。遠く。宜野湾の西南に龜山あり。この
処より首里に屬。龜山の麓。末吉と唱ふ。末吉の南に西儀保
あり。朱平村の北を。な。て。儀保と喚る。儀保と越。赤平あり。

赤平に石虎山あり。みなこれ龍宮城の北に當れり。と云く石虎山と
取り。あまづ、城を攻。小便宜な。し。と。回答。か。為朝。あ。く。飲。び。て
ぬ。う。ひ。軍。兵。に。手。に。つ。れ。や。ぐ。て。龜。山。小。と。み。入。り。多。へ。松。葉。凍
て。ま。う。ひ。や。う。朦。朧。雲。の。漢。の。張。角。が。流。れ。て。その。幻。術。量。に。あ。る。小
棟。孫。奇。律。之。ホ。城。を。捨。て。走。り。し。ゆ。い。ふ。う。れ。謀。あ。れ。ゆ。え。に。之。一。再。三
賢。急。と。廻。る。さ。る。づ。う。り。や。と。練。一。か。が。為。朝。笑。て。うち。点。び。し。れ。も。あ。る
と。あ。ま。づ。あ。ま。づ。凡。幻。術。を。り。て。人。の。眼。目。を。眩。惑。し。種。く。の。妖怪。を。現
と。る。と。れ。或。と。獸。の。鮮。血。或。人。の。糞。汁。を。注。り。か。くれ。ば。幻。術。忽。地。破
れ。ゆ。め。の。なり。豫。て。この。ゆ。え。と。あ。ま。づ。故。に。獸。血。人。糞。と。て。汚。穢。の。を。
夥。の。桶。小。貯。て。陣。中。小。齋。し。ま。れ。り。先。鋒。の。兵。あ。は。ち。く。長。柄。杓
を。唯。伎。し。り。朦。朧。の。中。に。術。を。行。ふ。と。る。な。は。速。小。汰。き。か。けて。

勢破るべし。と仰されハ鶴亀同胞の謀を受く。秋の水の決ごとく。
亀山をうち踰は。末吉に攻められ棟孫奇律之一手みなすく。
く破れしと防に戦ひし。むるむとして引退く。鶴亀木奮撃
あてこれを追ふと甚急なり。その勢ひ破竹のごとくなり。く破の
西將儀保も馬を駐めほど。赤平さへもうち捨く。龍宮城へ入る
ちり。

椿説弓張月拾遺卷之四 畢

之拾目

板金店書